

仙台集会 集団づくり分科会 分散会別提案要旨

A 分散会 (ハイブリッド開催) *仙台会場+ZOOM 仙台・東京・山形

「大人との信頼関係作りから始まった幼児期の集団づくり」3~5 歳児 (仙台 八木直子 下馬みどり保育園)

14 名の子どもたちとの 3 年間の実践。大泣きして怒ったり、甘えておんぶを求めたり、友だちにキツイ言葉を投げつけてしまったり…様々な姿で思いを表現する子どもたちを、悩みながらも「丸ごと受けとめよう」と奮闘する保育者。また、2 人組でのお当番や遊びの楽しさ、グループや少人数での話し合い、リーダー活動などをクラスの姿に合わせて取り組むことで、子ども同士の関係の広がりや深まりが生まれてくる。3 歳児期のエピソードで紹介された A ちゃんの 5 歳児期に見せる姿に子どもたちの育つ力を実感させられる実践。

「K 君の問題を周りも一緒に考えていける仲間づくりとは」5 歳児 (東京 三瓶莉奈)

自分の思い通りにならないとパニックになって集団から離れてしまう年長児 K に焦点を当てて仲間づくりの意義を検討している幼稚園の実践である。3 歳児クラスで二人組、4 歳児クラス以降、小グループ活動を位置づけているが、友達のことを気にしたり自分から関わろうとする姿は弱い。K がパニックになって他児を叩くと、K が悪いと指摘する子どもたちに対して、「どうして叩いたんだろうね」と結果ではなくて行動の動機に目を向けられるような話し合いを行ってきた。このような働きかけを続けていく中で、他児に認められて泣いて喜ぶ K の姿が現れてきた。一人一人の子どもの内面を深く捉えた集団づくりについて考えてみたい。

「子どもたちの子どもたちによる子どもたちのためのリレー」5 歳児 (山形 小座間由華 とちの実保育園)

5 歳児クラスの「リレー」の取り組み。保育園では、くらしやあそびの中で子どもが選び決めることをたいせつにし、行事も検討を重ねている。子どもたちの「リレー」には普段と変わらない繋がりや安心が見え、いきいきと喜び合っている姿がある。走順やチームがわからなくなっても子どもたちが相談して自分たちの「リレー」をつくっていく。保育者は、子どもたちにとっては「リレー」もあそびと変わらないことに気づく。あそびが行事に移行するなかで大人が無意識にあそびのあり方を決めてしまっていたはいなかったか、行事でも子どもの主体性をどう大事にできるかを職員みんなで振り返り考え合うきっかけになったという実践。

B 分散会(オンライン開催)*ZOOM のみ 2 歳児 広島・盛岡

「友達との関わりを通して生まれた思い」2 歳児 (広島 石本友子 なかよし保育園)

2 歳児クラス(子ども 13 名、担任 3 名)の実践提案。4 月、子ども達の多くは互いに名前も知らないところからのスタート。そのため、友だちの存在に気付き、友だちが好きになってほしいと班がつくられる。小さな集団での子どもたちの関わりが丁寧に育まれている。ここでは班で揃ってみんなで楽しい活動に向かうことが何度も繰り返される。はじめは友だちがいないことに気づかず無関心な子どもたちに、保育者はその都度「〇〇がおらんね?」と声をかけていく。集うことで創り出される安心感や思いの重なりの中で、子どもたちの主体的な生活の基盤がみえる実践。

「一人一人の思いに寄り添う保育をめざして」 2歳児（盛岡 三浦愛奈美 本宮保育園）

2歳児の小集団から広がるなかまづくりで、M君の育ちに焦点を当てた実践。絵本「ピーマンマン」のごっこ遊びから運動会につなげ、M君の気になる姿から今までの保育を振り返る。個々への対応は大切にしているものの、担任間で共通した関わりになっていたか？反省を前向きにとらえ直し担任間で子どもの姿を語り合っていく。当初担任が決めた二人組が居心地の良い関係になりM君の中でも友達が存在が大きくなっていると感じ、共通体験が友だちとのあそびの広がりにつながっていた。子どもたちの心が動いた瞬間を見逃さず、気づきも担任で共有し繰り返し話し合う事の大切さに改めて気づき、対保育者から子ども同士へのなかまづくりを大切にしていっていった実践。

C 分散会(オンライン開催)*ZOOMのみ 4歳児 京都・千葉

「子どもたちの姿から見てきた4歳児の集団づくり」4歳児（京都 上原潮夏 西野山保育園）

4歳児18名をベテランと若手の二人で担任。新入園2名のうちY君は自閉傾向が強く親子ともにフォローが必要で、生活面の自立やイメージする力が弱い子、トラブルが多い“幼い”集団からの出発だった。空想の友達との手紙のやりとりから園恒例の夕方探検（7月）を楽しみ自信をつけ始めた子どもたちから、Y君の姿に対する「なぜ？」の声が出始めた。運動会前日のリレーで「Y君が走らなければいい」とそっと伝えにきた子の言葉が話し合いのきっかけとなり、Y君を含めた集団づくりとは？Y君にとっての居場所とは？一人ひとりが「特別」だとわかりあえるには…？「『担任2人が子どもたちとやってみたい』と思える保育」を追求する実践。

「個から繋がる集団づくり」4歳児（千葉 加藤優花 鎌ヶ谷ひかり幼稚園）

4歳児25名で担任1名と加配1名のクラス。初めての進級で泣いて登園する子どもへの保育者との信頼関係づくりを行い、クラス全体でも保育者との関係を安定させたことで、友達との関わり・遊びの空間を広げていけた。9月から始めた当番活動では、やりたくないと言い出した2人の子どもへの無理強いではない対応を考える中から、クラス全体で話し合うことで、子どもたちからの提案で解決できた。10月の運動会以降は、言い合い、ぶつかり合いも増えていったが、子どもと一緒に考えられるよう投げかけたことで、子どもたちの方から提案するようになり、考える力がついてきた。

D 分散会(オンライン開催)*ZOOMのみ 5歳児 愛知・三重・大阪

「二つのリレーー子どもたちの決めたことを尊重してつくってきた運動会ー」5歳児

（愛知 今治知津子 こすもす保育園）

5歳児25人のクラス。リレーで遊んでいるなかで、「負けると悲しいから勝ち負けなしにしよう」という声から始まって、それぞれの思いを生かしたリレーのやり方を子どもたちが考えていった実践。勝負にこだわっていた子、独自のルールへのラクレスリレーを考え出した子、走ることに身体的制限があった子など、多様な子どもたちがおり、勝敗を決める“勝ち負けリレー”と、どちらも「ゴール！」と勝敗を決めない“同点リレー”をやってみると、今まで参加しなかった子たちが、やりたい方を選んで入ってくるようになった。子どもたちが主人公になって、楽しい行事をつくっていくにはどうしたらよいか、考え合いたい。

「やりたいがあふれる暮らし ～一人ひとりの“好き”を大切にしたい一年間～」5歳児

(三重 齊木美保 社会福祉法人ひよこ会 ことり保育園)

5歳児16名、担任2名のクラス。みんなでやりたりことを相談したり、毎朝それぞれの“やりたいことリスト”を作ったりして、一人ひとりの決定や好きなことを大切にしてきた。なかでも、ある子が「0歳児組からやりなおしたい」と言い出したのをきっかけに、実際に1ヶ月半の間0歳児クラスへ引っ越した5名が、ミルクや離乳食をもらったり、赤ちゃんを寝かせたり、ときどき年長に戻ったり、隣の1歳児の部屋への騒音問題を解決したりしながら、それぞれに楽しみ、変化していく様子があった。それがやがて保護者のやりたい願いにもつながっていく。自分だけでなく相手にも願いがあることを知り、それも大切にしなければいけないことを子どもたちが学んだ実践。

「友だちの中で変わってきたK君」5歳児 (大阪 藤中亚希 東大阪市立友井保育所)

5歳児19名(配慮児3名)、担任は2人。自分の気持ちをなかなか表現できず、友達に無関心だったり友だち関係がよくないクラスだった。どうしたら友だちに目がいくのか、自分の気持ちを出せるのか試行錯誤をしながら保育をしてきた。あそびを充実させることで子どもの気持ちが柔軟になり、話し合いを重ねることで自分の気持ちも言えるようになる。また、リーダー活動を通して友だち理解も深まっていった実践。